

第3学年 美術科 学習指導案

平成28年 1月12日(火) 第5校時
場所 第2美術室

1 題材名 「私の未来予想図」

2 題材について

(1) 生徒の実態

本校の生徒は美術科における創造活動等に対して熱心に、興味をもって取り組む生徒が多い。その理由の一つとして、進度表に「本時の目標」の記入をすることから始まり、「まとめ」として目標が達成できたかを記入していくことをルーティンとして、目標を達成するための方法(手立て)や道筋を生徒に具体的に考えさせるよう指導してきたことが考えられる。

また、授業の基盤となる学習規律の徹底に取り組み、授業を実践する上で問題となっていた忘れ物についても、毎時間チェックを行ったことで、ほとんど見られなくなってきている。本学級の生徒も、授業に対して、とても熱心に取り組み、題材の目標を理解し、より高いものを目指して制作に取り組むことができるようになってきている。

生徒達は小学校、あるいはそれ以前の幼稚園等から、中学校まで多くの描画材料やモダンテクニックを体験してきた。本題材では、それらの体験を生かせるよう、多様な表現が可能となるような準備を行っていく。描画材料やモダンテクニックの特長を生かした表現ができるように支援したい。

(2) 本題材を指導するに当たって

第3学年の生徒は、いよいよ受験期に入り、2か月後に卒業を控えている。人生初めての進路選択が間近に迫っている今、自己の将来を真剣に考え、夢や目標をもつことは、卒業後、長い人生を送っていく生徒個々にとって有意義なことである。そのためにも、自身の明るい未来を見据えて制作するよう指導していく。

生徒は、第1学年の題材「時間よ 止まれ! 瞬間のポーズ」(立体)で、人間の体の美しさやプロポーションについて学習し、第2学年の題材「自分再発見 -自画像を描こう-」(平面・鉛筆デッサン)を学習した。どちらも自分を見つめて、〈自分探しの旅〉を続けるという課題のもとに設定して指導を行ってきた。第3学年では、その集大成として「私の未来予想図」を位置付けている。本題材の指導に当たっては、材料や用具の特性をしっかりと理解させるとともに、自己評価用紙を効果的に活用したり、相互評価する場を設定したりするなどの工夫をすることで具体的な指導を施していきたい。

義務教育を終えようとしている第3学年では、本題材の学習が一生の中で美術の作品を制作する最後の機会になる生徒もいる。中学校生活最後の作品として、心を込めたものに仕上げさせたい。また、制作の機会としては最後であっても、鑑賞する機会は生涯を通じて続いて行くと考えられるので、生徒一人一人が仲間の作品や互いの制作途中の姿を目に焼き付けるように仕向けていきたい。

3 研究主題との関わり

研究主題	確かな学力を育む指導方法の工夫・改善 —学習規律の徹底と学習意欲の向上を基盤として—
------	---

これまで、美術科では、研究主題に迫るため、具体的に次の3つの事項に取り組んできた。

- (1) 「未来予想図」を発想する段階で「できない、わからない」という生徒をなくすための工夫として、将来就きたい職業のほか、やってみたいこと、現実から離れた夢など、幅広い範囲で発想できるような支援を行う。
- (2) 進度表を活用し、1単位時間の授業における学習目標を明示し、生徒がその方策を自分で考え、目標が達成できたかを確認できるようにするとともに、教師が生徒個々の状況を把握し、その達成度に応じた指導を繰り返し行う。
- (3) 誰もが授業に集中して取り組めるよう、忘れ物の確認を毎時間行う。

4 学習指導要領上の位置付け

A表現 (1) …感じ取ったことや考えたことを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。

ア 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すこと。

イ 主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること。

(2) …伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。

イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

B鑑賞 (1) …美術作品のよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。

ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。

[共通事項]

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特性などを基に、対象のイメージをとらえること。

5 目標及び評価規準

(1) 目標

将来の夢や希望を叶えた時の未来の自分の姿を、表現したい内容に適した表現技法を活かして表す。

(2) 本題材における評価規準

◆「努力を要する」と判断される状況 (C) の生徒への支援

※アンダーラインは [共通事項] に関連した内容を示す

美術に関する関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
関 夢のある未来を創造し自分の生き方について考えを表現することに関心をもち、主体的に表現の構想を練ったり、材料の特性を活かしたりしよう	感性や想像力を働かせ、自分らしさと未来がわかるように、 <u>形や色彩、描画材料の効果を活かして表現の構想を練っている。</u>	材料や用具、表現方法の特性を活かし、自分の表現意図に合うものを工夫しながら制作している。	作者の表現した未来の夢や希望を理解し、 <u>作品の形や色彩などの活かし方などを感じ取っている。</u>

としている。 鑑 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。			
◆ 参考作品を紹介しながら、現実的な未来から想像の世界まで幅広く考えるよう促す。	◆ 制作表2の「アイデアスケッチ」のチェックポイントの内容を個々に説明しながら助言する。	◆ 制作表3の「ケント紙に下絵を描いてみよう」、4の「着彩をしよう」を基に個別に指導し、制作させる。	◆ 自己評価用紙の鑑賞する際のポイントを説明し、記入の進まない者には個別の助言を行う。

6 指導計画・評価計画（8時間扱い）

学習活動	関	発	創	鑑	評価方法
1 題材の学習目標を理解し、制作の発想をもつ。 [参考作品の鑑賞、未来のアイデアの発想] (1時間) 本時	○	○		○	関 進度表 発 制作プリント 鑑 表情、観察
2 構想を練る。 [アイデアスケッチ] (1時間)	○	○			関 進度表 発 アイデアスケッチのプリント
3 構想をまとめる。 [ケント紙に下絵を描く] (1時間)	○	○	○		関 観察、進度表 発 作品 創 作品
4 着彩をする。 [描画材料の特長を活かす、表現したい内容に合わせての紙の変形、紙粘土の使用] (1時間)	○	○	○		関 表情、進度表 発 作品 創 作品
5 鑑賞・自己評価 (1時間)				○	鑑 自己評価用紙

7 本時の学習（本時 1／8時）

(1) 目標 参考作品を基に、自分の将来の夢や希望について想像し、アイデアを基に制作しようとする意欲を高める。

(2) 準備

○ 教師：参考作品、ケント紙、進度表、制作プリント、スパッタリングセット、マーブルリングセット

○ 生徒：教科書、資料集、ファイル

(3) 展開

過程時間	学習活動	・指導上の留意点 （〔共〕：〔共通事項に係る内容〕）	評価と手立て 観点：評価規準【評価方法等】
導入 5分	○進度表に本題材名、本日の学習内容等を記入する。	・本時の目標を記入する。 ・チャイム着席を守ることができたか、忘れ物はないか等を確認	

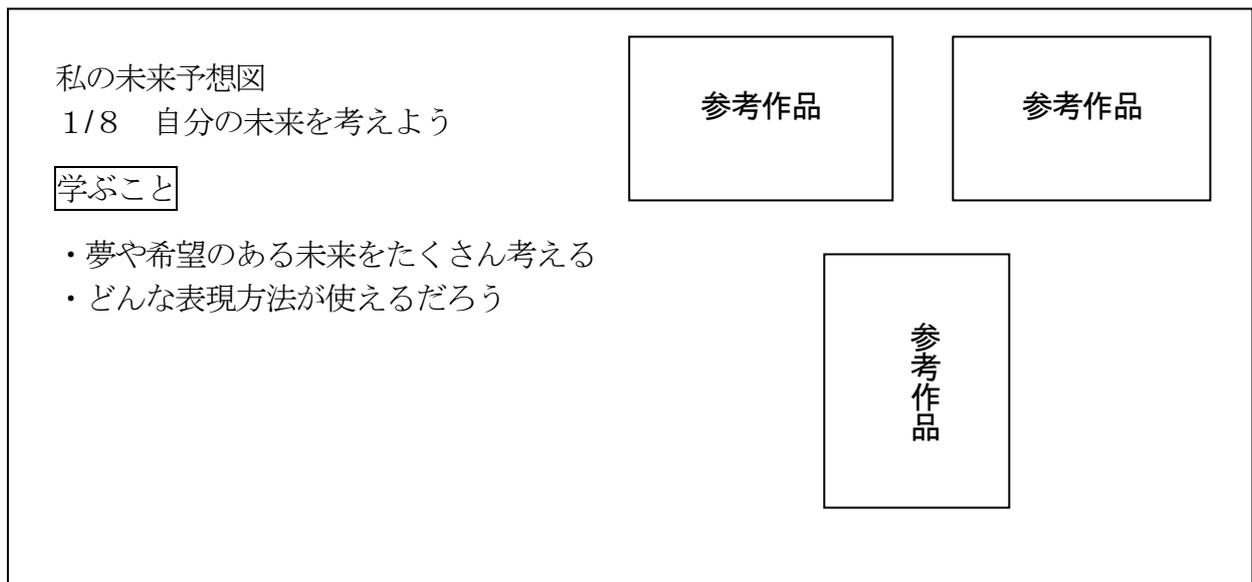
		する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢や希望のある未来をたくさん考える ・どんな表現方法があるだろう </div>		
展開 40分	<p>○参考作品を掲示しながら、本題材のねらいや材料の説明を聞く。</p> <p>① 現実に叶えられる未来を描いた作品</p> <p>② 現実的でない未来を描いた作品</p> <p>③ 描画材料別の作品</p> <p>④ ケント紙の形が変形した作品</p> <p>○本題材についての目標、計画、材料等を確認する。</p> <p>○自分自身の未来を予想してプリントに記入する。</p> <p>○10の未来予想の記入ができた生徒からアイデアスケッチを始める。</p>	<p>・「未来予想図」が、職業だけでなく、どのような内容の仕事をしているのかが分かるように表現してあることに注目させる。</p> <p>・現実的な未来像の例を紹介しながら、アイデアの書き方を説明する。</p> <p>【具体例】 ×パイロット →○世界の国々を飛び回るパイロット ×レーサー →○F1のレースで優勝できるレーサー</p> <p>・現実的ではない作品を紹介し、その視点を考えさせる。</p> <p>【具体例】 海底探検、花の妖精</p> <p>・描画材料を紹介し、その特性等に注目させる。</p> <p>【具体例】 写真、ポスターカラー、色鉛筆、クレヨン、コラージュ、粘土</p> <p>〔共〕 <u>形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を理解する。</u></p> <p>・制作プリントを使用して説明し、内容を確認して未来予想を記入させる。</p>	<p>鑑 参考作品に興味をもって鑑賞し、自分のつくりたい作品に投影している。</p> <p>【観察・表情】</p> <p>◎：集中して教師の説明を聞いている。</p> <p>◆：個別に話し掛けて内容を確認させる。</p> <p>発 夢や未来、生き方について想像力を働かせ、記述内容を工夫している。</p> <p>◎：将来の職業の予想だけでなく、背景や画面が思い浮かぶような修飾語も使用して記述している。</p>

			◆：具体例を挙げて説明し、イメージが膨らむように声を掛ける。
整理 5分	○本時の学習活動を振り返り、ねらいが達成できたか自己確認する。		関 「私の未来予想図」というテーマを基に、表現することに関心を持ち、主体的に未来を想像し、自身の生き方を考えている。 ◎：自己の将来について真剣に考え、自分の言葉で表現している。 ◆：進度表の記述内容と絡めてよりよい表現方法に気付かせる。

◎：十分満足できる状況 ◆：C判断生徒への手立て

8 その他

(1) 板書計画



(2) 資料

- 資料① 制作カード
- 資料② 進度表
- 資料③ 自己評価用紙